

平成24年度 登別市立図書館 第2回検討懇談会 会議録

日時 平成24年9月13日（水）午後4時から午後5時35分

場所 図書館3階会議室

出席者 【委員】 三浦澄子 合田美津子 須藤和恵
柴山太一 柴山太一 松原條一
【図書館】 澤田時人 教育部長 大野 薫 教育部次長
綿貫 亨 図書館長 太田裕之 図書館主査
高橋隆宏 図書館主任

議案

1. 協議事項

- ・地域情報センター及び配本所の機能強化について

2. その他

館長 今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。図書館協議会の図書館検討懇談会の第2回目になります。第1回目は地域情報センターの会議室で「第2次登別市子ども読書活動推進計画」の協議をさせていただきました。当日欠席だった方には資料をお送りしてご意見等をお願いしておりましたがありませんでしたので、案の内容で進めさせていただこうと思います。さて、本日の協議事項は地域情報センター及び配本所の機能強化についてであります。図書館サイドのプランを説明させていただこうと思います。これについてご審議いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

三浦 皆様こんにちは。第1回目は出席できなくて申し訳ありませんでした。「第2次登別市子ども読書活動推進計画」については一応の目途がついたということで、今日からは地域情報センター等の強化ということで進めさせていただきます。では、図書館の方からプランの説明をお願いします。

館長 配布資料に基づき説明。

三浦 ありがとうございます。いくつか確認ですが、人の手配についてはPIPと鷺別両方に司書の方を回すとのことですね。それと、雑誌類から増やしていく優先順位を持った計画についてはPIPの方の計画ということですね。

館長 そうです。

三浦 それではご質問等はございませんか。

合田 昨年示された理想的なモデルに対して、視聴覚資料は置かないということですが、それでは1と2の棚はどういうふうになるのですか。障害者用ではなく普通の視聴覚資料ということですね。

館長 そのように考えていました。この1と2は障害者用ではなく普通の視聴覚資料を考えていたのですが、先ほど言ったように視聴覚資料は予算的に事実上無理だと思いましたが、この1と2の部分はなくそうと思います。

三浦 空間になるということですか。

館長 現在この場所はAVブースが2列並んでいます。AVブースを潰して1と2の視聴覚資料用のラックとして置いたのですが、これがなくなりますので用途としては現行のままともう1個AVブースが入りますけれども、統計を見てもそれ程利用が無いので書架にするとかソファを置くとか別の用途として使うのが良いのかなと思います。

合田 視聴覚資料は図書館としては全然整備が無いですね。スペース的にこれが必要であれば障害者用ではなく普通のDVDを揃えるということに関しては良い案だと思います。

館長 普通の視聴覚資料として、落語とかクラシックとか今の図書館はほとんど視聴覚資料がありますからうちの図書館でもほしいと思ったのですが、予算的に現在でも資料費がきつくて参考資料も中々揃わない状況で、先ほど言ったように視聴覚資料はかなり予算を食いますので仮に今800万、900万円の資料費で200万円をここに投入すると、一般書や児童書等の収集に反映しますので蔵書構成から考えてそれが妥当なのかと考えます。

須藤 私もわからないところがありますのでできれば教えていただきたいと思います。PIPで揃える本というのは大体パソコン、旅行等がメインになると聞かせていただきました。その中で拡大読書器をここにということになると、ここで見られる本は限られたものになるのでは？と思います。

館長 おっしゃるとおりだと思います。今、市の図書館には拡大読書器は1台もありません。PIPに置くか本館に置くか、どちらに置くかということになると思いますが、主な使用者が高齢者なので文芸書などがある本館にあった方がいいのかなと思います。

拡大読書器の置き場については引き続き検討しなければと思います。

合田 拡大読書器の種類にもよると思いますしスペースの問題もあると思います。

館長 本格的な拡大読書器だと机もついていて車椅子でも使用できるよう高さ調節や角度調節など出来るのですが30万円位します。今は全く無いのでスタンド型で上からライトを照らし鏡で拡大する。このあたりが現実的だと思います。

合田 高齢社会というのを考えていけばそういう配慮は必要だと思います。そうすると本館に設置してむしろPIPの方には精度の良い拡大鏡を2つ3つ用意するぐらいの方が、一人の人が使っていたら他の人が使えない訳ですから、そういう意味で言うとそのような配慮の方が親切かなという気がしますので、ちょっと検討した方が良いのではないかと。

三浦 他にないでしょうか。

合田 全体的に見てPIPの件は、出来れば私は、本はなるべくたくさん置いてもらった方が良いので、これだけ盛りだくさんの物を入れても配架を見ていけば低配架になっていくんじゃないでしょうか。

館長 高い書架を入れて容量を稼ぐとかなり狭くなってしまいます。実際にメジャーで測りましたが、容量を確保しようとする書架の間隔とか全体に狭くなってしまって、くつろぎ・ゆとり・リラックスとは程遠いものになってしまうと思います。

合田 ここでゆとりとかスペースは望まないと思います。むしろ障害のある方や高齢者というのは良いなと思います。

また、アーニスの集客に結び付くような配慮も必要ではないでしょうか。多くの高齢者が1階フロアでたむろしていますが、そういう人達をPIPに取込みながら商業スペースも利用してもらえるようになれば、と思います。

柴山 情報センターを含めた全体で配置を変えることは出来ないのですか。就労支援などのリンクした事業を考えた訳ですよね。隣のスペースを活用して全体として広く使うのは難しいでしょうか。

部長 隣は職業安定所の出張所になっていまして、市が要請して作った施設です。元々は情報センターが全部を使っていて、半分を職業安定所のスペースに使わせております。

合田 限られたスペースの中でやってみながら変えていけばいいのではないのでしょうか。ただ配架だけは動かせなくなるのできちんとした方が良いと思います。

三浦 ご提言のプランでまず進めてみてはいかがでしょうかとこの意見が出ておりますが他いかがでしょうか。

柴山 1、2が無くなったプランのイメージでしょうか。

館長 そうです。

三浦 図面は参考という形でしたが、これが基本になるのでしょうか。

館長 会議室の中は正確に寸法を測っていませんので、書架を入れた場合にはどれくらい狭まってしまうかまで細かく調査はしていません。場合によっては会議室を生かすためには書架を部分的に削るということが出てくると思います。

合田 会議室のテーブルは使いづらいです。むしろテーブルをとって本を置いた方が使いやすくなると思います、会議やるにも読書会やるにも。ただ、パソコン教室で週2日か3日この部屋を使っていますからこのテーブルをどのように使っているかだと思います。

館長 パソコン教室は「のぼりん」に移る予定だったと思います。

松原 本館の弱点を補うといった案だと思いますけど、この形を実施した時にこの悩みが解決できているのかどうかかわからないところがあります。例えばスペースの問題ですけど、本館の本を移動するのであればスペースの面は緩和されると思うが、説明を受けた印象では雑誌館という感じで気楽に入れる場所を目指している感じがするので、本館の弱点を補うためのものになっているのかなと思います。

館長 うちの図書館の課題の中で、図書が溢れていることと雑誌の希望が多いけれど雑誌架がこれ以上増やせないことがあります。蔵書構成から見て16万冊の本があると雑誌はもう少しあるのが一般的で、雑誌の要望も私が来てから何度かいただいています。もう一つは今の図書館はリラックスする場所というか、来て雑誌や新聞とかを読んで、リラックスして1日を過ごすというような滞在型が主流になってきて、最近できる図書館というのはカーペットが敷いてあって綺麗な照明があつてというのがあつてというのがあるわけです。

雑誌館にするというよりこの図書館に無いくつろげる空間というのをここで作りたいのです。この図書館が改築とか増築とかが難しい状況の中で、私が来て言われたのは、「あその図書館で1日中いる気になりますか」と言われたんです。ちゃんとしたソファとか入れてカーペットとかを敷いて最近の図書館の作りに近いものをここで出したい。

P I Pの方は高齢者や障害者にやさしいので文学書の方がニーズはあるかもしれませんが、書架の構成上から考えて文学書ははるかに多いのであそこには収まりきれない。それでは何を持っていくのかとなると雑誌とか実用書になると思います。

出来れば書架がズラーっと並んでいるのではなくて、低層の書架でフロアが見渡せ、適時ソファがあってパソコンもある。最近の図書館が出しているものをあそこで出来ないだろうか。

松原 今の趣旨はわかるのですが、書架の飽和状態の解消となると、例えば本館に雑誌の類があると思いますが極端に言うと全部なくなるということになりますか。

館長 違います。

松原 そうですよ。コンセプトというか考え方がそもそも違うような気がするんですよ。館長の言われたことはすごく良いしそういう風になると利用する側からしてもリラックスするのではないかなと思うのですが、ここに書かれているのは現在の図書館の本館の弱点を補うためのということになると、それは中々解消できてないのでは。例えばリラックスする場所が無いとかバリアフリーで高齢者や障害者の方にはとっても使いやすく出来ているとかは言うなれば分館みたいな形の方が割り切って良いと思います。ここに書かれている提案のとおりこういう所ですよということをはっきり出せると思います。弱点を補うということであれば補いきれないだろうと思います。

館長 祝日とか夜間の利用は今よりは提供できるだろうと思います。就労支援とかについても。課題は、バリアフリーと書架の飽和とくつろぎの空間の両立が、限られたスペースのため難しいことです。これが仮に3倍くらいの広さだったら違って来るんですが、書架を入れるとくつろぎとかが失われてしまいますし、くつろぎを優先してしまうと書架があまり入らなくなりますし、そうすると図書館の書架の飽和解消につながらない。全部が出来ないのであれば優先順位をつけた。その一つは雑誌です。うちの図書館は雑誌が少ない。ですから蔵書構成的にも雑誌を増やしたい。さらに書架のスペースを取ってしまうもの、旅行書とかIT本を向こうに置きたい。ただバリアフリーとの関係では確かに整合性はあまりなくて、バリアフリーだったら高齢者向けの小説や時代小説を置く方が適切なんですけど。そのあたり現実には買い物帰りのお母さんとかの利用になる

のかなと。スペースがもっと広ければたくさん書架を入れてもブラウジングのソファークロウを置けるのですが、書架の脇に椅子がポンポンと入るくらいなので、これではくつろぎの空間とは言えませんし、このあたりが率直に言って難しい所です。

松原 いかに皆さんに図書に親んでもらえるかというのは大事なことで、資料に書かれているように新しいサービスを提供し本館を補完する別館として書いてあるけれど、補うとかではなくて図書の親しみやすい場所にしますとかで、コンセプトがちょっと本館の弱点を補ったり課題を解決するという作りになると違うという感じがします。図書館もこれしかないですし、地域情報センターのあの広さしかないです。ある姿のままに上手に活用できるかというのが大事であって、こうだったらああだったらというのは次の建て替えとかに考えることにして、今あるものをどういう風に利用して買って、買い物をしたお母さんや高齢者の人が親しんで、そこにふらっと来てこんな所があるんだという感じの所。そもそもコンセプト的に私の考えているのとはちょっとずれているのかなと。中身についてはこのとおりで構わないと思うのですが。向こうで借りたい本が無ければこっちに来るわけですし、ほとんどの本は本館にあるわけですし使い勝手としてはそういう使い勝手になるのだと思いますし、向こうに行く人はどんな人になるのかと思ったら雑誌を見たいとかどんな所かなと見に来る人だったり本館を利用しない人たちが割と行くのではないかと想像するのですが。そうすると、こういうコンセプトの方がはっきりしているし登別の図書館が考えている運営の仕方はこうですと補完をするのではなくて新たなコンセプトで例えば図書に対して親んでもらう場所としますよとした方がすっきりしますし、その案をこうですよと。逆なんですけど、こういうことをすることによって本館のバリアフリーでない弱点を補えるという順番になるのではないかと思います。

合田 忘れてほしくないのは図書館の利用者の拡大。つまりこれまで図書館に足を運んだことのないような人達にも図書館の利用者になってもらうというようなコンセプトはきちんとうたっておかないと。だから導入部としてひとつここだけでは満足できない人達を新たな間口を設定することによってより図書館の利用者の拡大に結び付くんだよというコンセプトを忘れてほしくないですね。つまりそのことがあって初めて本館で不足しているものがこっちで足されることで、図書館機能がより充実したものになっていくというところのことを松原さんは言ったのだと思うし、私もまったくそのとおりの考え方だと思います。ただこれは出てきた案だから意見をはさまなかった。当然そういうものはあってしかるべきだと考えていましたから。その押さえは必要だと思います。

館長 一点申し上げますと、実際あそこで見えていくと広さというのがおのずと決まってしまう。新しいニーズ、新しい利用者というのに図書館に行かせる。この図書館に

来ない利用者でも向こうに行く、というような新しい人に来てもらうコンセプトとして、今のこの図書館にはない新しいサービスを提供するとなった場合、ただ単に書架を並べたのではほとんど魅力が無いと思います。くつろげる空間と雑誌・パソコンがあったりすると1日いても面白いかなと思うんですけど、そうすると必然的に図書のスペースが。昨今の図書館の、全体が見渡せ広く感じるような低層で木製の暖かい雰囲気の本棚を入れるとなると、今の蔵書冊数とあまり変わらない。今壁に書架が並んでおりますけど、フロアーに低層の本棚が何本か入るとなると4番目の本館の本棚の飽和解消に関してはあまり多くを望めないと思います。それは、先ほど松原さんがおっしゃったとおり割り切りでもって、ここを補完するのではなくて別なコンセプトでやるんだと。それはそれでたしかに面白い図書館が出来ると思います。

そうすると低層の明るい雰囲気を出した雑誌とか実用書を主体とした図書館というような方向性があるのでしょうか。

全体 良いと思います。

松原 図書館ってこうだという考え方が殻を破れない一つの要因だと思うのですが、多分このままオープンしてみると利用者の皆さんの意見などから思ったとおりにいかないことが多いと思います。そうなったらああしようこうしよう考えるくらいの柔軟性があってもいいと思います。役所の枠は超えられないでしょうが良い方向に変えるのであればトップをはじめ皆さんも良いのではないかなとは思います。要は合田さんもおっしゃったけど皆さんが図書にどれだけ親しんでもらえるかそういうスペースをどれだけ提供できるかで、館長が先ほどから言われているくつろぎの場がたしに無いですよ。極端に言うと私なんかはごろ寝しながら読みたいぐらいなんですけど、なかなかそうもいかないというのが実態としてあるけれど、そうなったらなったように何とかできるように考えるとか、場所が狭いのであれば次の場所を探しておいてやってみようかとか、あまりきちんと固めないでやった方がうまくいくのではないかなと思います。せっかくやるのだから大々的にうったえかけていく。例えば雑誌館。雑誌ならほとんど揃っているよ。本屋さんに行かなくてもここで見られるよというようなのを打ち出していけるととりあえずきっかけづくりはできるのではと思います。

三浦 皆さん共有されてきたかなと思いますが、現在の図書館本館の弱点課題を補うというあたりの所はちょっと考え方を変換して、豊かに図書館を利用できるとか親しみを持てるというような表現に変えて分館として物事を考えていって良いのではないかなということだいたい方向付けは出来た感じがします。細かい所についてはあれこれありましたけれど、大筋内容はこれでいけるといいなというところですね。事務局に確認ですが、この案件は今日仕上げるものなのでしょうか。

館長 いいえ違います。

三浦 次回もこの続きをするということですね。

館長 具体的には最初にお話ししたとおり26年度からです。ですから今年1年間かけてもっと細かい資料とか書架とかあるいはソファールとかもう少し具体的な図を作り上げて、それを25年度に予算要求をしまして26年度からとなります。

今日お手元に資料として職員の勤務体制をお配りしました。これが現在の驚別と地域情報センターの勤務体制なのですが、先程からお話しているように、この2つの館は図書館から職員を派遣したいというのが私の望んでいることです。

人の問題とハード面と物流の問題と協議する問題はまだまだあります。

三浦 1番の件についてはこのへんにしまして、2番のその他について何かありますでしょうか。

三浦 ないようですのでこれで終わります。次回の予定はどうでしょうか。10月31日水曜日午後4時からとの声がありましたが一覧でしょうか。

全体 異議なし

三浦 それでは次回は、10月31日水曜日午後4時からとします。本日はありがとうございました。